

# 個が生きる課題解決学習と自己評価

福島 靖之

## 1. 個が生きる課題解決学習

国語科の授業に限らず、学習課題の設定あるいは提示のしかたは、その授業の流れを決定する重大なことからである。教師の意図通りに授業を進めようと考えれば、教師設定型の課題提示がなされるが、これが子供の探究心に沿ったものであるとは限らない。一方、児童設定型の課題提示にすれば、子供の学習意欲を喚起することはできるが、教師の指導性を失ってしまう恐れがある。子供一人一人の考えを大切に、しかも方向性を持った授業を仕組むためにはどのような方法をとればよいのだろうか。

個が生きるための課題の設定について、次のような仮説を立て、検証したいと考えた。

仮説1：自分の考えが活かされ、自力で解決することができる課題が設定されれば、子供は自ら進んで学習に取り組むことができるであろう。

個が生きるためには、さらに子供の関心・意欲・態度を評価し、自己の高まりに気づかせる必要がある。そのための評価のあり方について、次のような仮説を立て、取り組むことにした。

仮説2：学習後の自己の変容に対して、正しく自己評価がなされれば、子供は、自己の高まりに気づき、新たな学習意欲を持つであろう。

以上2つの仮説を検証するための課題設定および自己評価について、文学作品「ちいちゃんのかげおくり」(光村3下)、「ごんぎつね」(光村4下)の授業の中で実践した。

## 2. 実践事例

### (1) 児童および学級の実態

3年生C児は、意欲的に学習に取り組むが、直感的に判断することが多い。算数の計算処理等は速いが、国語の読み取りのように、本文を何度も読み返しながらじっくりと考えることは苦手である。ノートの記述も端的な表現で短く書くことが多い。人前で発表することにも苦手意識があり、手は挙げるものの、いざ発表するとなるとうまく言葉にならず、「分かりません。」と言うこともよくあった。

4月来、複式の特性を生かして、発表する機会を多く設けるようにしてきた結果、2学期後半頃から、発表に自信をつけてきた様子である。以来、発表に意欲的になり、自分の意見にこだわりを示すようになってきた。C児の意欲を、本単元の学習に生かし、言葉にこだわりながら深く考える態度を育てたいと考えた。

本単元の場面ごとの読み取りにおける、C児のノート記述を、他の児童のものと比較しながら、分析してみることにした。A児は、考え方がまじめで一面的な見方をすることが多いが、国語は好きである。B児は、思考力、創造力に富み、多様な考え方ができ、作文が得意である。C児と対象的な特性を持つ二人の児童を抽出児とした。

4年生は、考え方が一つの方向に流れやすく、独創的な考え方を出す児童が少ない。ノート記述

を見ても、よく似た表現が多く見られ、考え方の多様性に欠けるという複式のデメリットの面を反映している。抽出児Dは、その中にあって、比較的多様な考え方のできる児童である。E児は、おとなしく従順な児童であるが、時に、自分の考えを反対意見として出す思い切りのよさもある。F児は情意的な考え方をする児童で、論理性に欠けるものの、登場人物の心情にこだわりを示す。これらの児童の個性を生かしながら、多様な考えを引き出すような課題を設けることによって、自分なりの意見を発表することの楽しさを味わわせたいと考えた。

## (2) 課題設定について

学習課題は、子供から出されたものを、子供自身が考え、子供達の読み深めによって、解決していくというように、問題解決学習の形態をとりやすいものがよい。特に複式授業においては、このような学習パターンを自力で消化することは不可欠である。子供から出された課題には、依然として一問一答式のクイズ的なものも多いが、課題作りの経験を重ねるうち、読み深めに適した課題もできるようになった。以下は、子供たちが考え、自ら解決しようとした課題の例である。なお、子供たちは、この学習を「問題作り」という名称で認識している。

	3年「ちいちゃんのかげおくり」	4年「ごんぎつね」
問題作り	①お父さんはなぜ、体が弱いのにせんそうに行かなければならないのですか。 ②ちいちゃんをだいて走ってくれた人は、なぜちいちゃんを助けたのですか。 ③お母さんとはぐれたときのちいちゃんの気持ちはどうでしたか。 ④なぜちいちゃんは、暑いような寒いような気がしたのですか。 ⑤ちいちゃんは、自分が死んだことをどう思っているのですか。	①雨が上がって、ごんはどんないたずらをしましたか。 ②兵十の家に大勢の人が集まっていたのは、何があったのでしょうか。 ③兵十のお母さんが死んだことを、ごんはどう思っていますか。 ④なぜ、ごんは、兵十の家に、くりや松たけを持って行ってやったのですか。 ⑤なぜ、兵十は、火なわじゅうをバタリと落としましたか。

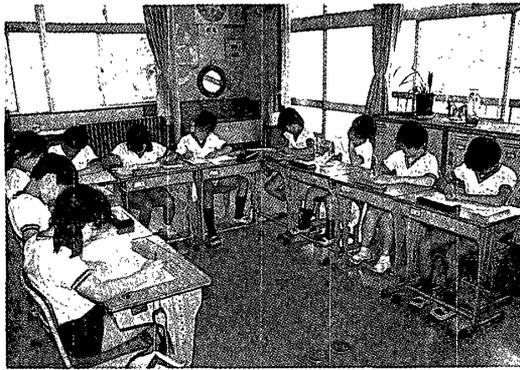
子供達には、本文をよく読まないとわからないような問題、いろんな考え方ができるような問題を作るように指導している。回を重ねるごとに子供達の課題意識は洗練され、読み深めの学習にも十分耐えられる課題を生むようになってきていると考えられる。自力で課題を解決する学習（ひとり読み）をした後、全体で課題に取り組む場を設定するため、子供達から出された課題を精選し、次のような学習課題を提示していった。ノート記述から、それに対し子供がどのような考えを持ったかも記した。

	3年「ちいちゃんのかげおくり」	4年「ごんぎつね」
第一場面	①出征する前の日、お父さんが家族をつれて、先祖のはかまいりをしたのはなぜですか。 A体の弱いお父さんまで、いくさにかななければいけないからです。 Bみんながせんそうで生きぬいて、元気であるように、先祖におねがいをすると思ったから。 Cせんそうをするから、かぞくだけでもたすかるようにはかまいりにいった。 ②お父さんが、かげおくりのことを「今日の記念写真だなあ。」と言ったのはなぜですか。	①どうしてごんは、いたずらばかりしていたのでしょうか。 Dひとりぼっちでさみしいから。 Eひとりぼっちでさみしいから。 Fひとりぼっちでさびしかったから。 ②雨が上がって、あなから出てきたとき、ごんは、どんな気持ちだったのでしょうか。 D久しぶりに外に出れて、とてもさわやかな感じがする。 Eほっとした気持ち。 Fいたずらができるのでうれしい。 ③兵十からにげたあと、ごんがうなぎをあなの外の葉の上に乗せておいたのはなぜです

	<p>A お父さんにとっては、みんなと会うのは さいごだからで、思い出においておく。 B いくさがはげしくなると、みんなわかれ てしまうから、思い出ということと言っ たと思う。 C しんでもそらで、そのかげおくりをし たときを見れるから。</p>	<p>か。 D ぬすんだので、そのときも少しは悪いこ とをしたなと思っていたので、兵十がせっか くとったうなぎをすてるわけにはいかない から。 E ごんは、いたずらがしたいからとただ で、うなぎは別にほしくなかったから。 F もし兵十がきたら、うなぎがあなの外に あるので、この中にいるなと思わせてだま そうと思っていた。</p>
<p>第 二 場 面</p>	<p>③ ちいちゃんとお兄ちゃんの手を引いて走 るお母さんはどんな気持ちだったでしょ うか。 A 自分と家族だけは守るぞという気持ち。 B ちいちゃんお兄ちゃんはぐれてはだめよ という気持ち。 C 死にたくないという気持ち。 ④ おじさんは、どうしてちいちゃんをだ いて走ったのでしょうか。 A 小さな子どもがひとりぼっちでにげるの を見て、かわいそうだと思ったから。 B せんそうの時には、だれもがこまってい て、助け合う気持ちがとっても強くて、 とってもやさしくなるから。 C 一人でも多くの人をすくいたいと思っ たからだいて走った。 ⑤ ひとりぼっちでたくさんの人たちの中 でねむるちいちゃんは、どんな気持ちだ ったでしょう。 A お母さんやお兄ちゃんとはぐれて、と ても悲しい気持ち。 B 悲しくって、お母さんに会いたい気持 ちです。 C 早くお母ちゃんが見つからないかなと思 う気持ち。</p>	<p>④ 村人たちの様子を見て、なぜごんはそ う式だと分かったのでしょうか。 弥助の家内がお歯黒をつけていた。新兵 衛の家内がかみをすいていた。兵十の家 による着物を着た女たちが大ぜい集ま っていた。表のかまどで火をたいて、大 きななべの中では、何かぐずぐずに えていた。(D E Fとも同様の記述であ った。) ⑤ そう式の様子の中で、ごんの心に残 ったのはどんな様子だと思いますか。 D 兵十のいつもの赤くてさつまいも みみたいな赤い顔がなんだかしおれて いること。 E いつもは、赤いさつまいもみ みたいな元気のいい顔がしおれて いること。 F いつもは赤いさつまいもみ みたいな元気のいい顔が今日は なんだかしおれていました。 ⑥ あなの中でごんが考えたことは たしかなことですか。そう思 うわけも書きましょう。 D (記述なし) E ちがうと思う。びんぼうで 食べるものがないから、お 母さんに食べさせる物をと ろうと思ったから。 F たしかだと思う。六場面 で、兵十が「こないだう なぎをぬすみやがった……」 というところで、ほかにも やられたことを考えて いないから。</p>
<p>第 三 場 面</p>	<p>⑥ 「おうちのところ。」と言ったとき、 ちいちゃんは、どんな気持ち でしたか。 A 早くお母ちゃんや、お兄 ちゃんに会えるといいな という気持ち。 B ひとりぼっちになったと いったら、またさみしく なってしまうから、自分 をはげましている気持 ち。 C おうちにお母ちゃん とお兄ちゃんが帰っている かしんばいな気持ち。 ⑦ 「深くうなずきました。 ……また深くうなず きました。」という言葉 から、ちいちゃんのど んな気持ちが分かります か。 A ぜったいに、家に帰 ると、お母ちゃんや お兄ちゃんがいるぞ という気持ちが分か ります。 B お母さんたちは、 ぜったい帰ってくる からだいじょうぶ という気持ち。</p>	<p>⑦ おっかあをなくした兵十 に対して、ごんはどう 思いましたか。 D おれと同じひとりぼ っちの兵十か。 E おれと同じひとりぼ っちの兵十か。 F おれがいたずら をしたから、兵十の おっかあは死んだ。 ⑧ ごんはどうして兵十 のうちにいわしを 投げこんだのですか。 D うなぎのつぐない にいいことをしよ うとした。 E ごんがいたずら をして、兵十を ひとりぼっちに してしまったので、 いいことをしよ うと思って投げ 込んだ。 F いたずらをして、 兵十のおっかあ が死んだから そのつぐないに いわしを投げ こんだ。 ⑨ 「次の日も、その 次の日も」とい う言葉から、 ごんのど んな様子や 気持ちが 分か りま</p>

<p>C ぜったいここにお母ちゃんとお兄ちゃんが帰ってくるという気持ちが分かる。</p> <p>⑧「ほしいいを少し食べました。」と「ほしいいをまた少しかじりました。」をくらべて、ちいちゃんの体の様子がどうか変わったと思いますか。</p> <p>A すごくおなかがすいて、すごく体が弱って、あまりほしいいを食べれなかったから、すごくつかれている。</p> <p>B 少し食べるというのは、ちゃんとのみこんで、少しかじるというのは、ほんの少しのみこむので、とつてもものどがかわいて、力がなくなってきたと思う。</p> <p>C だんだん元気がなくなってきたと思います。</p>	<p>すか。</p> <p>D 自分のせいでおっかあがいなくなったので毎日あげなければ、</p> <p>E ごんは悪いことをしたかわりにくりを持って来ているので、ほんとうに悪いことをしたなあのごんは思っている。</p> <p>F ごんはとってもやさしくて、毎日くりや松たけを持って来て兵十にあげるの、せきにんをすごく感じている。</p>
<p>⑨ ちいちゃんが暑いような寒いような気がしたというのは、どういうことだと思いますか。</p> <p>A すごくのどがかわいていて、すごくしんどいから、暑いような寒いようなへんな気がした。</p> <p>B 体が弱ってきて、つかれきったということ。</p> <p>C あつかさむいかさえわからないほどよわったことだと思います。</p> <p>⑩ ちいちゃんはひとりでかげおくりをしたのにどうして四つになったのでしょうか。</p> <p>A 青い空から、お父さんやお母さんやお兄ちゃんの声がふってきたから。</p> <p>B お母さん、お父さん、お兄ちゃんのことをずっと思っていたから、ちいちゃんからはそう見えた。</p> <p>C まえうつした、かげおくりのかげが空にうつったと思います。</p> <p>⑪ ちいちゃんはどうなったのですか。その時ちいちゃんはどんな気持ちでしたか。</p> <p>A ちいちゃんは死にました。その時、ちいちゃんは、お母さんやお兄ちゃんに早く会えるといいなという気持ちでした。</p> <p>B 死んで天国にいきました。そのときの気持ちは、お母さんたちに会えてよかったと思っとうれしい気持ち。</p> <p>C 体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていった。楽しい気持ち。</p> <p>⑫ さいごの場面で、ちいちゃんはうれいはずなのに、読んでみると悲しくなるのはどうしてだと思いますか。</p> <p>A ちいちゃんは、みんなと会えてうれいけど、ちいちゃんは、たった一つの命をなくしたから。</p> <p>B ちいちゃんは、死んでうれいさがつかめてよかったのだけれど、ちいちゃんはせんそうでつかれきって死んでしまったのでかわいそうだからだと思います。</p>	<p>⑩ どうしてごんは兵十と加助のあとをつけていったのでしょうか。</p> <p>D どんな話をするのか聞きたいから。</p> <p>E ごんは二人の話を聞きたかった。兵十がくりのことを話していたので、どう思っているか聞きたかったから。</p> <p>F ごんは、さっき話していたことつづきを聞いて、兵十がどんなふうに思っているかしりたかったから。</p> <p>⑪ ごんはどんな様子であとをつけていましたか。それはなぜですか。</p> <p>D 兵十のかげをふみふみ歩いた。二人の話を聞こうとした。</p> <p>E 兵十のかげぼうしをふみふみいった。見つかると何をされるか分からないから。</p> <p>F 兵十のかげぼうしをふみふみいった。どんなふうに思っているか聞こうと思ったから</p> <p>⑫ 加助が「神様のしわざだぞ。」と言ったとき、ごんはどう思いましたか。それはなぜですか。</p> <p>D 自分がやっているのに神様がやったと言ったので、引き合わないなと思った。</p> <p>E 神様にお礼を言って、ごんにはお礼を言わないので、引き合わない。自分のしていることを分かってもらいたいから。</p> <p>F へえ、こいつはつまらないな。おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うから。</p>
	<p>〔第六場面〕</p> <p>⑬ うちの中へ入るごんを見つけたとき、兵十はどう思いましたか。</p> <p>D またいたずらをしにきたな。</p> <p>E こないだ、うなぎをぬすみやかったあのごんぎつねめがまたいたずらをしに来たな。</p> <p>F 今日こそしかえしをしてやるぞ。今に見ておれ。</p> <p>⑭ 土間に置いてあるくりを見つけたとき、兵</p>

Cちいちゃんは、死んでいることをしらないから楽しくて、ぼくらはちいちゃんが死んでいることを知っているからだと思えます。



十はどう思いましたか。

D (兵十が火なわじゅうをばたりと落としたところの気持ちとして)

お前がやっていたとは、気づかなかったもんだから、ごめんな。

Eいつも、ごんがくりを持って来てくれたのか。悪いことをしてしまった。

Fごめんよ。本当はやさしいんだな。ごめんよ。

⑮ごんはどういう気持ちでうなずいたでしょう。

D どうして気がついてくれなかったんだ。

E 兵十にうなぎのつぐないが分かってもらえてよかった。

F やっと分かってもらえた。死ぬ前に分かってもらえてうれしかった。

### (3) 自己評価について

各場面の学習をするごとに、その時間に生まれた自分の考えや友達の考えについて、または学習に取り組む姿勢についてよかったと思うことを記述させた。自由記述とし、内容面についてでも態度面についてでもよいものとした。その中で、自らの考え方の変容に気づいたり、自己の能力の高まりに気づいたものを取り上げ、折りにふれて紹介し、全員で認めるように働きかけてきた。抽出児たちの記述は以下の通りである。

#### ① 3年生：C児の変容を裏付ける自己評価

第1場面……ぼくは、発表ができてすごうれしかったです。ぼくは①がとても自信があったからです。

第2場面……ぼくは、いちばん発表したかった所が言えなかったの、とてもくやしかったです。

第3場面……ぼくは、⑧であててもらいたくて待っていたのにできなかったから、とてもごんねんです。

第4・5場面……ぼくは、はじめのかんそうよりおわりのかんそうのほうが好きです。どうしてかという、おわりの方がはじめより上手に書いているからです。それと、とてもよくちいちゃんのことを分かったからです。

#### 自己の変容に気付いた他の児童の記述

○ どうしてちいちゃんがひとりでかげおくりをしたのに、お父さんやお母さん、お兄ちゃんのかげがあったのかなと思っていたのも分かりました。

○ わたしは、さいしょかわいそうという感想しか出せなかったけれども、ちいちゃんをよくこんなこわいなかをのりこえたなと思いました。

○ わたしは、さいしょは、ちいちゃんだけかわいそうと思っていたけど、せんそうに会った人みんながかわいそうでした。

○ ぼくは、初めて2回発表できた。

○ みんながおどろくほど発表していたのでよかった。ぼくもそんなにやっていて、(自分でも) すごびっくりした。

#### ② 4年生：互いにかかわりながら多様な意見を出せたことを裏付ける自己評価。

第1場面……ぼくは、いたずらだけしたいと思いきっていたけど、D君やFさんの思ったことを聞いて、そうかもしれないなあと思った。(E児)

第2場面……わたしは、ごんはやっばりやさしいんだなと思いました。友達の意見で、ごんは本当

はやさしいと聞いたとき、わたしもそう思いました。理由はあとのほうで考えているのは、やさしいことを考えていると思ったからです。(F児)

第3場面……わたしは、今日はじしんがなくて、あまり言わなかったけど、ノートに書いていないことでも、ひらめいて言えたのでよかったです。D君もひらめいたことを言えたのでよかったです。(F児)

第6場面……初めは、ごんは悪いことをしたり、いいことをしているだけだと思っていたけど、今は、それだけじゃなく、人の気持ちも分かってあげているので、ごんの気持ちがいりいり分かったと思った。(E児) /みんな、いい意見を出していたので、兵十もいい人だったんだなということが分かった。(D児)

自己の変容に気付いた他の児童の記述

○兵十は悪い人だと思っていたけど、よく考えると、とてもやさしい人だと思えました。ごんもいたずらをするけど、とてもやさしいきつねだったんだなと気づきました。

○初めから、ごんはやさしいと思っていたけど、読んでいるうちに、ごんはもっともっとやさしくていいきつねなんだなと思えました。ごんがいたずらするのは、ひとりできびしかっただけで、本当はすごくいいきつねだと思います。

○みんなといろんな意見を出して、いろいろなことが分かって、兵十やごんの気持ちも分かったのよかったです。

### 3. 考察と課題

#### (1) 仮説1 (課題設定) について

私は、授業に際して、予め教師側の課題を作らないようにしている。教師が課題をもっていると、子供の作る課題をそれに近づけようとするのではないかと考えるからである。そうならないように、子供が作った課題を目にして、共感できるものを課題として授業の中に取り上げていくように努めている。結果的には同じことになるのかも知れないが、基本的な考え方に大きな違いがあるように思う。もちろん、それでは指導目標をすべてカバーすることはできない。しかし、教師が思いもよらなかったような学習課題が子供から出されることもある。個が生きる授業とは、そのような教師の意図にないものの中に潜んでいるのかも知れない。

本単元での実践に際して、子供の着眼の鋭さに学ぶこともあった。次第に課題意識を高めていく子供達の様子を見ながら、今後も子供の手による「問題作り」の活動を大事にしていきたいと考えている。

3年生も4年生も、一つの課題に対して、同じような考えが出されることが多かった。それらの中には、言い回しを変えてみることによって、別の角度から考えることが可能なものもあるようだ。今後の課題としたい。

#### (2) 仮説2 (自己評価) について

中学年の子供達にとって、自己を客観的に見ることは難しいようである。友達をほめることは上手でも、自分をほめることは意外に苦手である。それは、自分をほめる言葉をさがすのに苦労するということでもあるようだ。C児の「～したかったのに、できなくてくやしい。」という記述は、意欲の裏返しの表現であると考えられることができる。それをほめ、意欲を失うことのないように留意した。友達の発表を聞いて新たな発見ができたことを喜んだり、たくさん発表ができる自分に驚いたりした記述が見られたが、これらは自己を高める評価力にかかわる記述であると考えられることができる。このような記述を積極的に子供達に紹介し、易しく説明することによって、感じたことを素直に記述すればよいことを理解させ、自然なスタイルで自己評価ができる子供を育てていきたいと考えている。